

【 徳島県阿波市 】

校務DX計画

1. 阿波市校務DX化の現状及び課題

本市では、令和3年4月より、徳島県内全公立小中学校が使用する徳島県公立小中学校「学校業務支援システム」を利用している。当該システムは、教職員の円滑な情報共有を行うためのグループウェアと、児童生徒の情報や学校の予定等を管理する統合型校務支援システムから成っており、校務を円滑に行っている。

しかしながら、国が公表した「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト」（文部科学省・令和6年9月）に基づく自己点検結果により、本市においても校務DXを十分推進できている項目、また、今後改善していく必要がある項目が見られた。

校務DXを十分推進できている項目について、教育委員会においては、「統合型校務支援システムの導入」、「教育情報セキュリティポリシーの策定」等が挙げられ、学校においては、「クラウドサービスを活用した職員間の情報共有や連絡」、「児童生徒のタブレット端末の家庭での利用（持ち帰り）」等の項目が推進できている。

一方で、今後改善していく必要がある項目として、教育委員会においては、「ペーパーレス化」、「教育委員会主催の研修会のハイブリッド（対面・オンライン）化」等が挙げられ、学校においては、「クラウドサービスを用いた欠席連絡・アンケート・日程調整等」、「ペーパーレス化」、「FAXや押印の原則廃止」等の項目を改善していく必要がある。

2. 阿波市校務DX化課題の解決策

（1）クラウドサービスの活用

現在行っている事務作業の中で、ペーパーレス化を図ることができるものがないか見直し、アンケートや日程調整等はクラウドサービスに移行し、これまで電話で行っていた連絡をチャットに置き換える。研修においても、対面形式が必須でない場合は、オンラインまたはハイブリッド開催での実施及び動画視聴（オンデマンド配信等）に置き換える。

また、今後もICT支援員が学校を訪問し、クラウドサービスの活用方法に関する研修を重ねていき、教職員が日常的に活用できるように推進していく。

（2）FAXを利用したやりとり及び押印の廃止

これまでのFAXを利用したやりとりを廃止し、メールの定型文等を利用することで、校務の効率化を図っていく。また、統合型校務支援システムを活用し、指導要録、出席簿、学校日誌、保健日誌等の公簿及び公文書の電子化を推進し、押印の原則廃止を促進していく。

3. 次世代の校務DX環境の整備について

現在のネットワーク環境は、学習系ネットワークと校務系ネットワークが分離しており、データ連携が困難である。また、校務支援システムを利用できる場所は、職員室のみに限られている。

今後は、学習系、校務系のネットワークについて、アクセス制御を行なうなどセキュリティ面を確保したうえで、ネットワークの統合を検討していく。

また、教職員1人1人の事情に合わせて場所や時間を選ばず柔軟な働き方ができる校務のロケーションフリー化を図るなど、校務DXを推進し、教職員の働き方改革を推進していく。